

第6回 西宮市緑の基本計画改定検討会 議事録(発言要旨)

■日 時：令和元年8月20日(火) 10:00～11:50

■場 所：西宮市役所 本庁舎 681 会議室

■出席委員：平田座長、梶木副座長、栗本委員、栗野委員、長岡委員

■事務局：土木局長 他 12 名

■傍聴者：1名

■議 事：(1) 第5回 改定検討会におけるご意見について

(2) 計画(素案)について

(3) 基本理念について

■議 事 録：(「⇒」は意見・質問に対する回答又は関連する意見等を示す。)

(1) 第5回 改定検討会におけるご意見について

- ・ 特になし。

(2) 計画(素案)について

① 計画の記載内容について

- ・ p.11「(5)まちなかの緑(市街地の緑)」について、「農地もまちにあるべきもの」とあり、これは法律に基づく表現のようであるが分かりにくい。数少なくなってきた農業生産を身近に感じられる機会の提供など、都市の中での農地の重要性を別の表現で示されるとよい。また、公園にするとしてもどのような機能を持たせるのかということは検討する必要がある。継続困難な農地を、単に不足する公園用地として想定しているかのように誤って受け取られないよう、表現の工夫が必要。【委員】

⇒ 農地については、生産緑地地区の2022年問題が目前に迫ってきており、市としては、関係部署が連携して対応を検討している。その中で、現状の方向性としては、農業の継続が第一義的に挙げられると考えているが、継続が困難になった場合は、農家レストランや農業体験などの農業に関連する利用も想定している。また、公園にする場合でも、都市公園法施行令において市民農園的に利用することも可能になっていることも含めて検討していく。なお、生産緑地地区の土地所有者に対してのアンケート調査結果からは、現時点では農業の継続を希望されている方が多いが、農業が継続できない場合でも、農業との関わりを残していきたいという意向も見受けられた。こうした状況も踏まえ、公園化に当たっては、一律に公園整備を行うということではなく、土地所有者の意向も加味しながら検討することを想定している。JR以北に関しては、そもそも公園が不足しているという地域状況であるため、公園化に当たっては、特に慎重に検討していきたい。

【事務局】

- ・ p.11「(8)環境学習とみどり」の写真について、環境学習には生涯学習という側面もあるが、次世代を担う子どもの関わりが見て取れる方が好ましいと考えられるため、学校園での取組を示すような写真が望ましい。【委員】

⇒ 本文の記載や写真からは、環境学習の対象としているのが低年齢層や比較的高齢の大人の取組に集中しているような印象を受ける。中高生や大学生などの若者の取組の写真を入れるだけでも、各年代にわたって取り組まれている様子が分かり、更に良くなると思われる。【委員】

⇒ 環境学習の取組については、市では「地球ウォッチングクラブにしのみや」の取組を推

進しており、その中で小学生向けに EWC カードを、中学生以上や大人の世代には市民活動カードを発行している。ただ、実態として市民活動カードの参加は EWC カードよりも少ないため、中学、高校、大学、社会人の環境学習が年代的に途切れてしまうことなく、習慣として継続できるようにする必要がある。また、地域の活動として「エココミュニティ会議」も活発化してきており、こうした活動とも連携し、緑地をフィールドとして様々な取組を推進していきたい。【事務局】

⇒ SSH（スーパーサイエンスハイスクール）に指定されている学校はないか。こうした学校は環境教育に積極的に取り組まれていることが多い。【委員】

（事務局注：西宮市内においては、武庫川女子大学附属中学校・高等学校が指定を受けている。）

⇒ 中学校や高校でも生物部等で多様な取組を行っており、EWC 環境パネル展等でも発表されている。こうした取組と連携した展開を考えていきたい。【事務局】

- ・ p. 26 の「みどりに関するまちづくりの課題」について、現在、再検討中とのことであるが、この課題は総合計画に書かれているような内容に近く、西宮市として目指す像であり、「課題」としては違和感がある。また、この「課題」に対して、みどりをもって貢献できる内容を下に「目標」として書いている、という理解で良いか。【委員】

⇒ 行政的な考え方では、課題はマイナス面を、目標はプラス面を挙げることが一般的である。p. 26、図 23 に挙げた課題の表現については、マイナスの課題が表現されていないため、工夫する必要があると考えている。【事務局】

② 計画指標について

- ・ アウトプット指標とアウトカム指標(注1)をいかに整理するかが重要。アウトプット指標は、市の施策の進捗をチェックする指標と考えられる。それに対して、市民の生活や意識がいかに変わったかを評価するのがアウトカム指標と考えられる。原案では、アウトプット指標とアウトカム指標が混在しているように思われる。【委員】

⇒アウトプット指標は、市の取組実績そのものであり、アウトカム指標を評価するためにはアンケート調査が最も有効と考えている。原案の整理作業に当たっては、まず指標となり得るものを全てリストアップし、その中で可能な限りアウトカム指標と捉えられ得るものを抽出し、3つの基本方針に分類して精査した。こうした状況から、全体指標がアウトカム指標で、個別の指標がアウトプット指標になっていると考えている。ただし、アウトプット指標であったとしても、確実に市民生活に良い影響を与えると考えられる、アウトカムにつながるものを案として採用した。【事務局】

- ・ アウトプット指標について、行動計画の進捗の中で、どのように PDCA のチェックを行うのか。【委員】

⇒ 公園緑化部3課では、毎年、事業の実施状況を整理した「西宮の公園・緑地」を発行している。本書は現状では、公園等の整備状況等を羅列的に整理したものになっているが、本計画策定後は、これまでと同様の整理に加えて、本計画の組立て方に合わせた評価を経年的に把握し、進捗管理を行っていく予定である。【事務局】

⇒ 行動計画の書き振りを見ると、アウトプット指標で評価できるもの、実施の有無で評価できるもの、定性的な努力目標のみが書かれているものと、3つ程度のパターンがあるように見受けられるが、これらはそれぞれどのように進捗管理するか。また、全てについては難しいかもしれないが、各項目について目標値を設定することは可能か。【委員】

⇒ 少なくとも現況の数値を示せるものは表記し、評価しやすいようにしている。各項目の目標値については、進捗管理について章立てにリンクするようなものを考えている。また、行動計画は全て一様に推進できるものでもなく、予算執行との兼ね合いもあり、ある程度メリハリを付けて推進することが見込まれる。そのため、評価を行うためには計画の本編で目標を細分化するのではなく、中間年度での見直しの中で議論していきたい。

【事務局】

⇒ 指標に縛られると行動計画に基づく取組が曖昧になってしまうおそれがある。【委員】

⇒ 全ての行動計画に対する数値目標の設定は難しいということであるため、代表的な指標として各基本方針に沿ってアウトプット指標を含めた指標を設定し、全体指標としてはアウトカム指標で示すこととする。【委員】

- ・ 個別の指標についてはアウトプット指標を設定するとのことであるが、それでも、p. 34「②みどりが育む“豊かな暮らし”」の指標については、ほかの基本方針の指標との温度差を感じる。また、公園に特化しすぎて、もう一つの行動分野である「まちなみの緑化推進」について言及できていないのではないか。p. 29の「課題に対する目標(目指す姿)」に示された「子どもの健やかな成長を支える」や「健康で心豊かな暮らしを支える」ための主な取組が、トイレの改修、幼児用遊具、健康遊具なのか。【委員】

⇒ 当該箇所の指標の検討に当たっては、公園の施設整備以外に関連するアウトカム指標を全体指標として取り扱ってしまったために、施設整備に関するアウトプット指標が残ってしまったという側面がある。【事務局】

⇒ アウトカム指標がないというのは、そのとおりのかもしれないが、高邁な目標設定の割には、進捗を測るのが公園の中の施設の数で良いのかは疑問。そして、「まちなみの緑化推進」を測る指標がないのはなぜか。【委員】

⇒ 「(1)まちなみの緑化推進」について、「①民有地の緑化誘導」については、全体指標の「市全体の緑の量の満足度」で測られるものと考えており、その他は法制度に基づく傾向が強いため、指標としては設定しづらい状況であった。また、「②公共施設の緑化推進」については、今後、市が増進していくものというよりは、これができるからこそ安全・安心などの市民生活を下支えすることができるものであることから、指標として出しづらい状況であった。こうしたことから、結果として公園に関係する指標がメインとなっただけではあるが、「(1)まちなみの緑化推進」については全体指標の中に含まれていることを含み置きいただきたい。【事務局】

⇒ 先ほど説明した、今後の点検・評価に当たっての「西宮の公園・緑地」の整理の中では、民有地緑化の助成件数や助成金額の推移、街路樹の老木・巨木の植替え本数といったものを整理していくことになるが、これらが指標になるかと言われると、少々物足りないと考えられた。こうしたこともあり、公園の施設の数による指標設定となっている。ただし、ここで設定した指標は、無機質な数値目標ではなく、現状のニーズに照らし合わせて市民生活に確実に有益となり、公園の利活用の活性化につながる指標であると考えている。

【事務局】

⇒ 本計画は「みどりの基本計画」であり、公園を緑として認識する市民も7割程度いることから、公園に誘導することがみどりの活性化につながるという論理かと思われる。ただし、原案の指標では、公園整備で完結してしまうことが懸念され、公園に来てもらうことでどのようにみどりと接点を持ってもらうか等、公園に誘導するその次のステップを装置として埋め込んでほしいと思う。【委員】

- ⇒ 遊具に関する指標については、遊具そのものの数を想定されているように思われる。例えば、幼児用遊具の専用エリアがある公園数といった指標とすれば、安全・安心にもつながり、もう一步踏み込んだ指標となるのではないかと。【委員】
- ⇒ 大規模な公園についてはエリア区分も可能であるが、小規模の公園については敷地面積との兼ね合いから難しい面がある。現状としては、小規模な公園でも時間帯によってかろうじて利用者層が異なり住み分けができてきている状態と考えている。【事務局】
- ・ 近年の一般的なニーズとして、ベンチをたくさん置くことが求められているようであるがいかがか。【委員】
 - ⇒ 公園も憩いの空間として活用されているという実態の中で、現状、老朽化しているものも多く、更新の必要性も認識してはいるが、現況数を把握しきれていない状況であるため、指標としては設定しづらい。【事務局】
 - ⇒ 都市の中でのベンチは、公園だけではなく設置主体もいろいろあり所管が異なるため、全体の数を把握することは少々難しいかもしれない。【委員】
 - ⇒ まちなかの遊歩道沿いでベンチが欲しいといった話もよくあるため、より複雑か。【委員】
 - ⇒ 数的な目標設定ができるとしたら公園のベンチ数しかないかと思うが、比較的安価で頻繁に入替や設置・撤去があり公園台帳でも把握しきれていないため、一からの調査が必要となる。【事務局】

(3) 基本理念について

以下の7案を提示し検討。

- ①みどりが拓く 住みたいまち、住み続けたいまち・西宮
 - ②みどりで広がるみんなの輪、みどりと暮らすまち・西宮
 - ③西宮のみどりが育む、やすらぎ、すこやか、つながりの暮らし
 - ④住みたいのは便利さだけじゃない、みどりがあまるまちだから。
 - ⑤樹々のように優しく、花々のように麗しいまち・西宮
 - ⑥まちのみどりは、みんなの庭。みんなの笑顔は、庭のみどりから。
 - ⑦みんなが主役！明日につなごう西宮のみどり
- ・ ②の「広がる」という概念は、本計画にそぐわしいと思われる。【委員】
 - ・ 市民との共有や、市民が主役という観点を踏まえると、「みんなが」という表現が、反って自分は違うと受け取られるきらいがあるため、「私たちが」といった主体的なニュアンスが含まれると良いと思う。【委員】
 - ・ 計画の内容に即した、という観点からは③が良いと思うが、誰かがやってくれるというようにも受け取れるため、もう少し能動的な表現とすると良いと思われる。7つの案については、そのままで採用が決定するというのは少々難しいか。【委員】
 - ・ 基本計画としては、オーソドックスな表現が好ましいと思い、そうした意味からは①が良いかと思う。それでなければ、一人ひとりの市民の関わりについては若干弱い印象を受けるが、⑦が良いかと思う。以上から、強いて挙げるとすれば①か⑦が良いかと思う。【委員】
 - ・ 基本理念の決定方法については、①～⑦のどれかで多数決を取るというものでもないと考えており、原案をたたき台として、好ましい言葉の組合せを検討するといったことも考えられる。【事務局】
 - ・ 市民一人ひとりが守っていこう、育てていこうという意味がなければ、未来につなげていく

ことはできないと思われる。今は役所に任せておけば良いという時代でもないため、「私たちが守り育むみどりとの暮らし」といった希望が持てるものが良いと思う。【委員】

- ・ 「私たち一人ひとりが拓き広げ、明日につなぐ西宮のみどり」といった案はどうか。【委員】
 - ・ 3つの基本方針は良くできていると思われるため、これらを串刺しする基本理念となると良い。また、「明日につなげる」や「未来につなげる」といった言葉も将来性がある。【委員】
- ⇒ そうすると、「一人ひとりが守り育て 未来につなげる 西宮のみどり」といった表現はどうか。【委員】
- ⇒ 「一人ひとり」という表現は、個々が独立した印象を受けるが、「私たち」や「みんな」で受けることで印象が和らぐか。【委員】
- ⇒ 「一人ひとり」と言われるとベランダ園芸をしている姿がイメージされる。【委員】
- ⇒ 「みんなで守り育て 未来につなげる 西宮のみどり」といった表現か。【委員】
- ⇒ もう少しシンプルに、「みんなで育み 未来へつなげる 西宮のみどり」としてはどうか。【委員】
- ⇒ 基本理念に主体的な意志を持たせるために、「みんなで育み 未来へつなぐ 西宮のみどり」としてはどうか。【事務局】
- ⇒ それでは、「みんなで育み 未来へつなぐ 西宮のみどり」を基本として検討していく。【事務局】

(4) 今後のスケジュールについて

- ・ 今後は、今回のご意見等を踏まえて修正の上、庁内の照会・調整を経て、再度、委員の皆様へ計画(案)をご送付する予定。
- ・ その後は、議会へ計画(案)を報告し、パブリックコメントを実施し、パブリックコメントの結果を再度議会へ報告し、最終となる本検討会を開催する流れを想定している。
- ・ 第7回検討会は、議会の日程の都合上、来年の3月頃の開催を予定している。

以上

(注1)アウトカム指標：行政活動の成果（政策の成果）を測る指標。受益者（国民や地域住民）の観点からとらえた具体的な効果や効用を基準とする。成果指標。

これに対し、

アウトプット指標：事業の具体的な活動量や活動実績（公共サービスの産出量）を測る指標。活動指標。（出典：大辞林 第三版）

例)「交通安全の推進」を目的とした「歩道の設置」という事業について

「歩道を年度内に〇〇m設置する」＝アウトプット

その成果として「交通事故件数が減少する」＝アウトカム